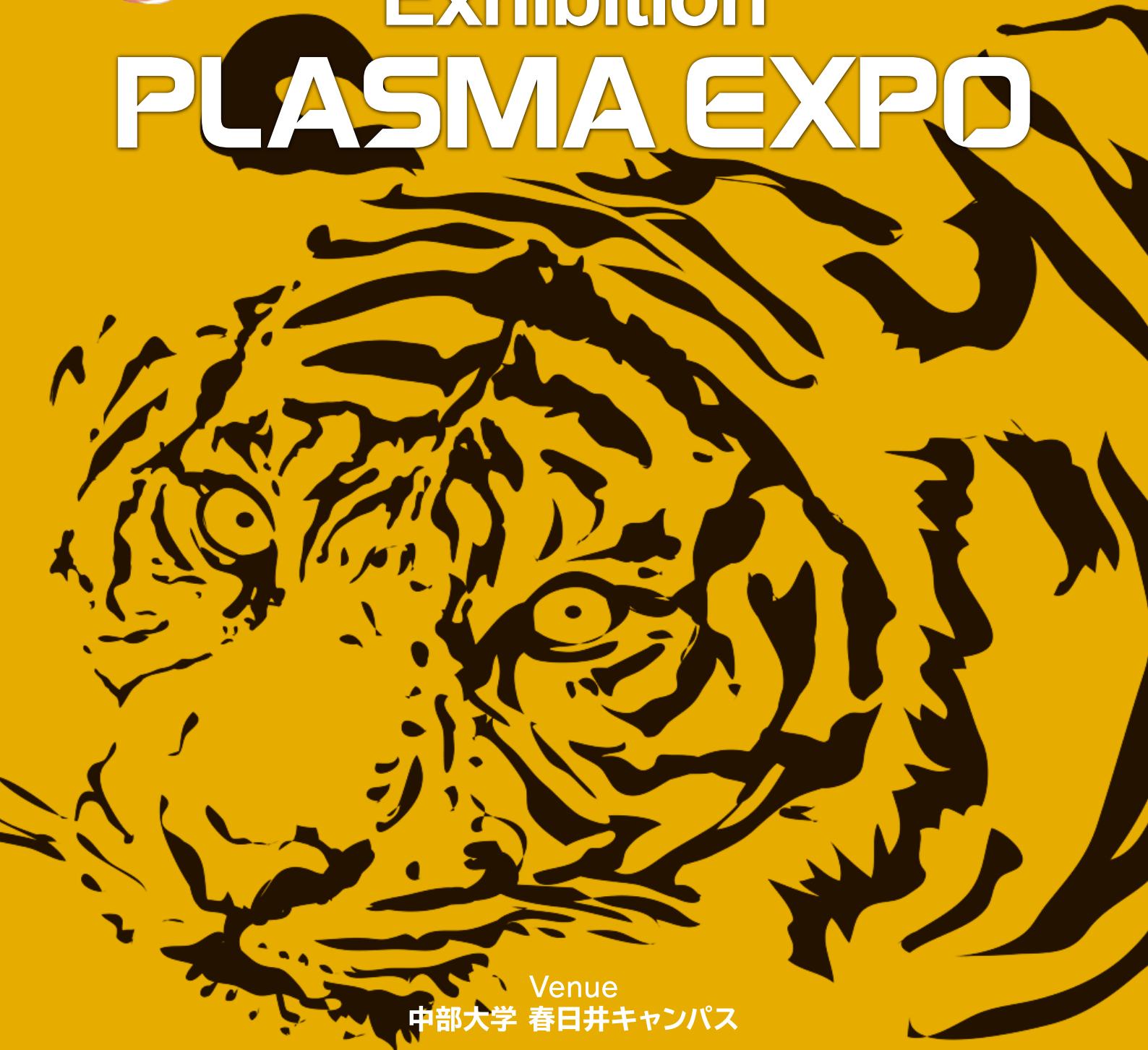


The 36th Annual Meeting プラズマ・核融合学会 第36回年会
The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research



Exhibition **PLASMA EXPO**



Venue
中部大学 春日井キャンパス

Dates
2019年11月29日(金)～12月2日(月)

出展者＆スポンサー募集要項

プラズマ・核融合学会第36回年会

展示会「PLASMA EXPO 2019」

企業展示検討委員長 大野 哲靖(名古屋大学)

プラズマの研究は、将来のエネルギー源として期待される核融合発電の実現を目指して大きな成果を挙げてきました。その結果、物理学、電気工学、材料工学、真空工学、放射線工学等、幅広い分野にまたがり盛んな研究開発が行われています。ここで開発されてきたプラズマに関する様々な技術は、材料・ナノテクノロジー・医療・生命科学・宇宙工学を含む最先端分野に幅広く応用されています。

本学会は、1958年湯川秀樹博士を会長として生まれた研究者組織「核融合懇談会」が母体となって、1983年学術団体「プラズマ・核融合学会」として発足し、1988年には社団法人となりました。2012年には一般社団法人へと移行認可し、「プラズマ・核融合に関する学理並びに技術についての研究の発表、知識と意見の交換、情報の発信等を行うことにより、この分野における研究の進歩と人材育成を図り、もって我が国における学術、科学技術並びに産業の発展に寄与すること」を目的として発展してきています。ここに掲げたプラズマと核融合を縦糸とするなら、学理と技術という横糸でこれらを紡いでいくのが本学会の使命であると言えます。

固体・液体・気体に続く物質の第四の状態である「プラズマ」は、太陽や核融合のような超高温プラズマ領域から、半導体プロセッシング等の産業応用プラズマ、宇宙電気推進機、大気圧プラズマに代表される低温プラズマにわたって、非常に幅広い科学技術分野で研究が進められています。本年会では、これらの広い分野を対象に活動を進めていることをより明確に示すために、4つの領域(基礎、応用、核融合 plasma、核融合炉工学)を設定し、個別領域や学際領域でのホットなトピックや多くの方の関心が深いテーマを積極的に取り上げていきます。これにより、実験室から宇宙に至るまでの様々なプラズマの学理(基礎)、プラズマの産業応用や医療応用等(応用)、核融合における高温プラズマの理工学(核融合 plasma)、および核融合炉実現のための炉工学(核融合炉工学)という多くの分野で研究開発に携わっておられる方にご満足いただけるような年会を目指しております。

このように、学術から応用までの幅広い分野をカバーする第36回プラズマ・核融合学会年会は、産学から多くの研究者・技術者が集い、核融合学にとどまらず、関連する技術開発、さらには様々なプラズマ応用等についての優れた情報交換の場となることが期待されます。この年会会場に併設される企業展示会を、是非とも貴社のアピールの場としてご活用いただくなことをご検討いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。



領域A:基礎

1. プラズマ基礎・放電物理
2. スペースプラズマ(宇宙プラズマ・天文)
3. 高エネルギー密度科学・量子ビーム
4. 非平衡極限プラズマ
5. 波動、不安定性、流れ、加速
6. プラズマ計測
7. 原子分子過程、表面素過程
8. 非中性プラズマ・ダストプラズマ
9. プラズマ源・イオン源
10. データ駆動プラズマサイエンス
11. その他

領域B:応用

1. 産業用のプラズマ源とモニタリング
2. 成膜・表面処理
3. エッチング
4. ナノテクノロジー
5. ライフサイエンス
6. 環境・エネルギー
7. 新応用・融合分野
8. その他

領域C:核融合プラズマ

1. 平衡・安定性
2. 閉じ込め・輸送・乱流
3. 加熱・電流駆動・高エネルギー粒子物理
4. スクレーブオフ層・ダイバータ物理
5. 定常運転・制御
6. 計測・診断
7. 高ベータ・コンパクト系の物理
8. 慣性核融合・高エネルギー密度プラズマ
9. その他

領域D:核融合炉工学

1. 炉設計
2. マグネット
3. ブランケット(ブランケット材料含む)
4. ダイバータ・プラズマ対向機器(ダイバータ材料含む)
5. 加熱・電流駆動システム
6. 核融合燃料システム
7. 核融合炉の安全性・保守性
8. 核融合炉の経済性・社会受容性
9. ニュートリニクスと中性子源
10. 計測・制御
11. その他

